

“個人事業主と健康” に関する 考察と知見

産業医科大学 産業生態科学研究所
産業保健経営学研究室

教授 森 晃爾

資料作成協力

同研究室 永田 智久准教授
小田上公法助教

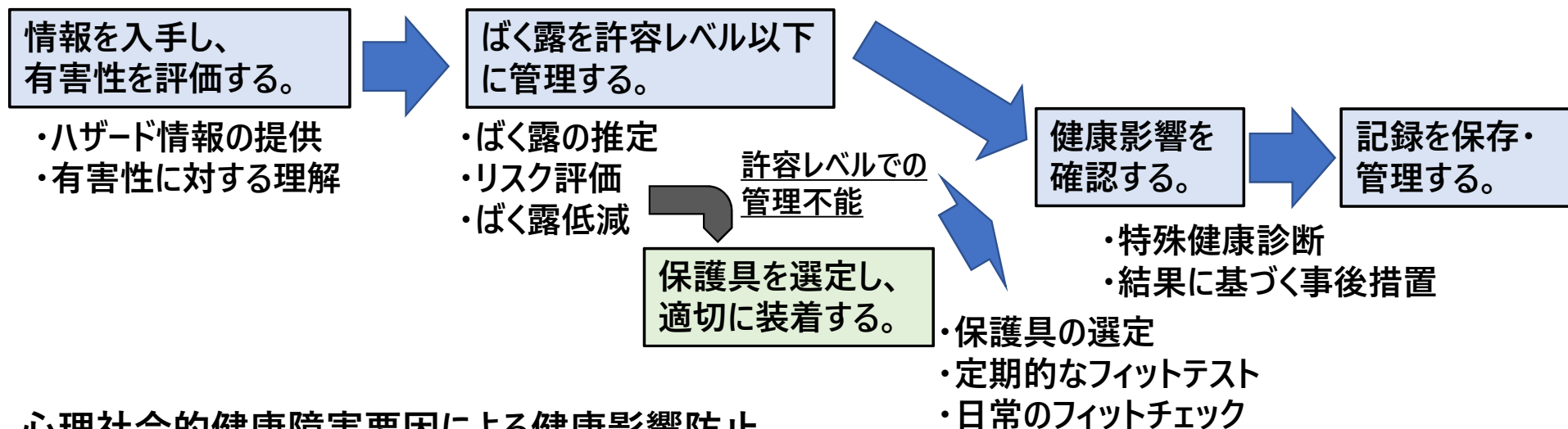
内容

- **個人事業主の健康確保の役割分担に関する考察**
- **個人事業主の安全衛生の実態に関する知見**

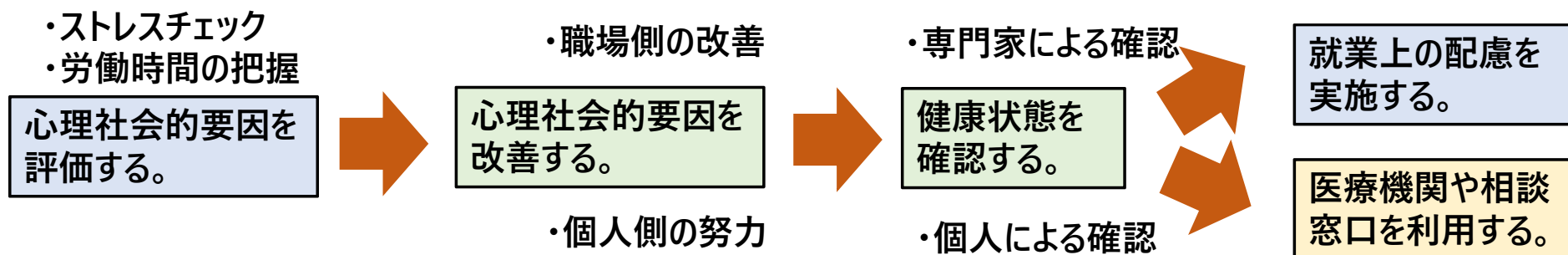
個人事業主の健康確保の役割 分担に関する考察

目的ごとの健康確保のための必要な取組み要件

1. 有害要因による健康影響防止

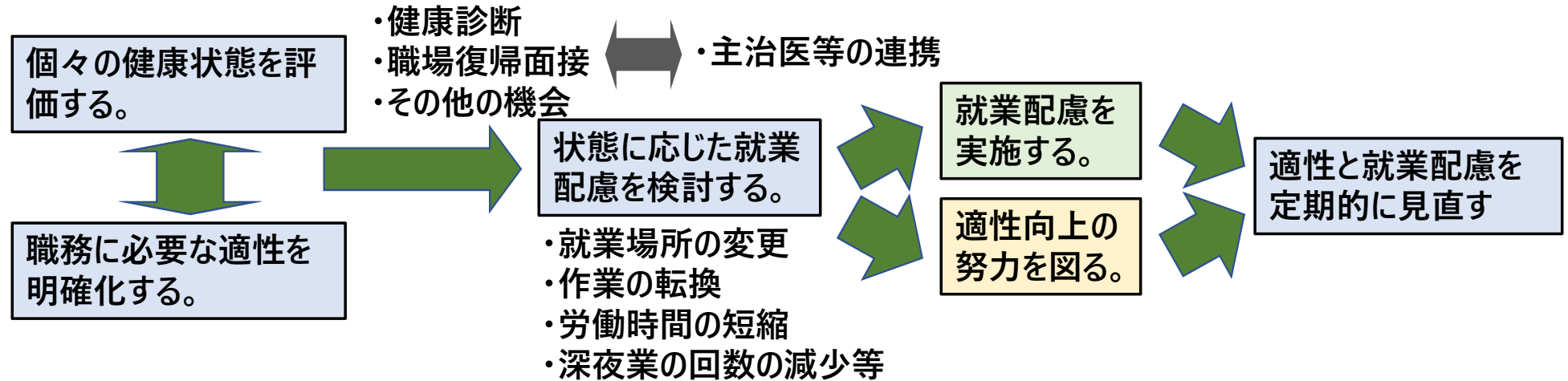


2. 心理社会的健康障害要因による健康影響防止

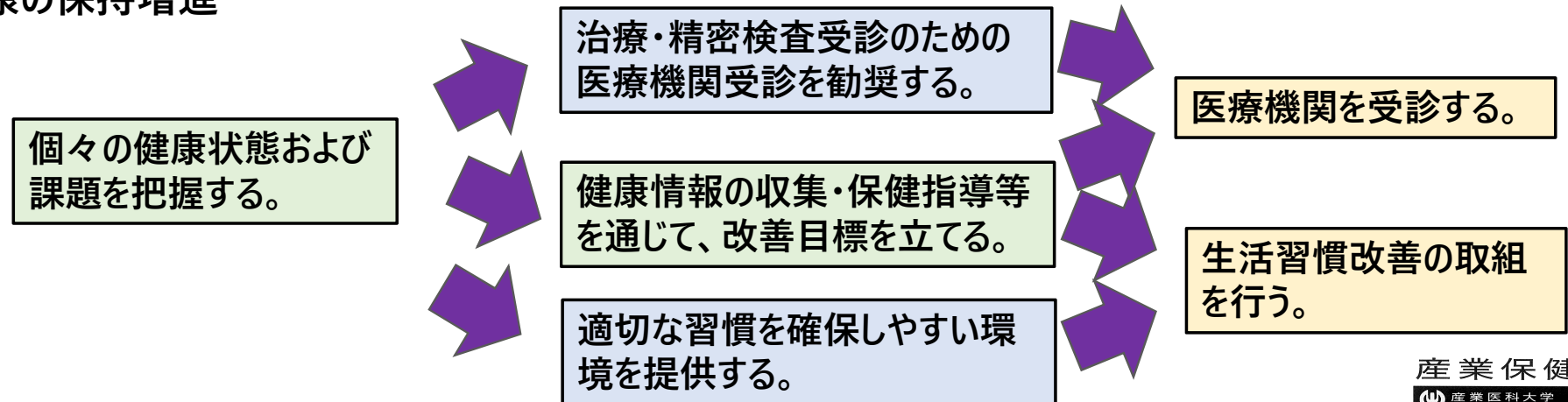


目的ごとの健康確保のための必要な取組み要件

3. 職務適性の管理／両立支援



4. 健康の保持増進



個人事業主の健康確保のための役割分担

- 目的ごとに、働く人の健康確保のための必要な取組み要件が存在する。
- 被雇用者については、多くの要素を事業者が担っている。

今後の議論ポイント

- 個人事業主の場合には、どこからは個人責任として位置づけることが可能か？
- 個人責任とした場合でも、その一部は、情報の伝達、技術習得の支援が必要ではないか？

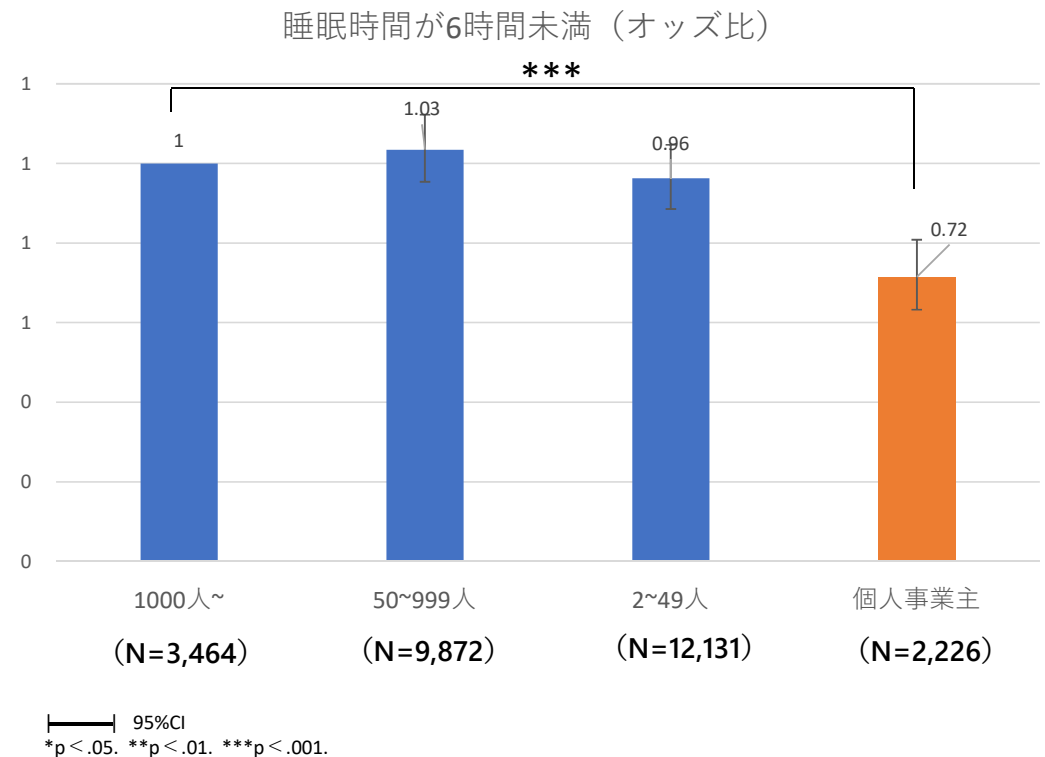
個人事業主の安全衛生の実態に関する 知見

個人事業主の睡眠状況

個人事業主は、組織所属者に比べて短時間睡眠（6時間未満）が少なかった。

- 2022年2月に実施したインターネット調査会社を利用して行った調査
- 27,693人を対象に分析、そのうち、個人事業主(組織規模1名)を2,226名含む

- 性・年齢、業種・職種、収入、教育歴、婚姻状況を調整した場合、個人事業主では、1000人以上の組織所属者比で、6時間未満の睡眠時間の調整オッズ比が**0.72**であった。



個人事業主の主観的健康観

個人事業主は、組織所属者に比べて主観的健康観が高かった。

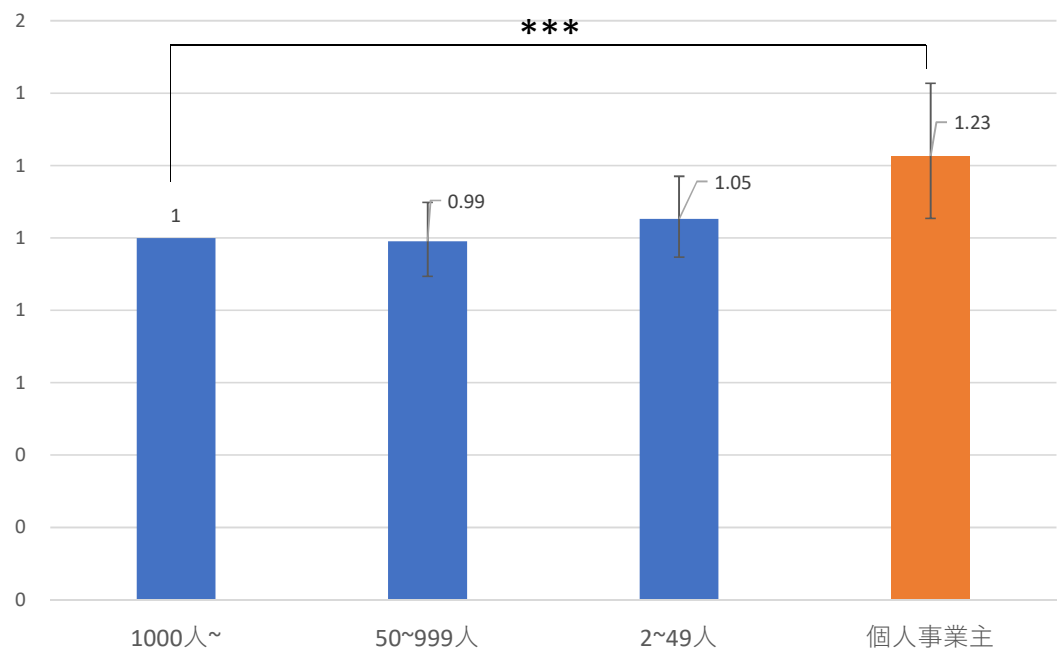
- 性・年齢、業種・職種、収入、教育歴、婚姻状況を調整した場合、個人事業主では、1000人以上の組織所属者比べて、主観的健康観の調整オッズ比が1.23であった。

【質問】
あなたの現在の健康状態はいかがですか。あてはまる選択肢を選んでください。

【回答】

1	大変良い	}	良い	} 二分してロジスティック 回帰分析を実施
2	良い			
3	どちらかといえば良い			
4	どちらかといえば悪い	}	悪い	
5	悪い			
6	大変悪い			

主観的健康観（オッズ比）



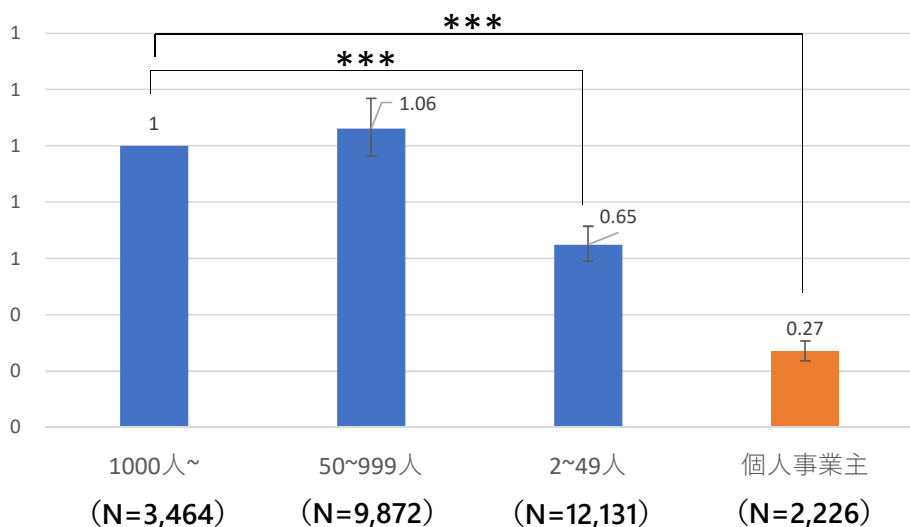
— 95%CI
*p<.05. **p<.01. ***p<.001.

個人事業主の健康診断（人間ドックを含む）受診状況

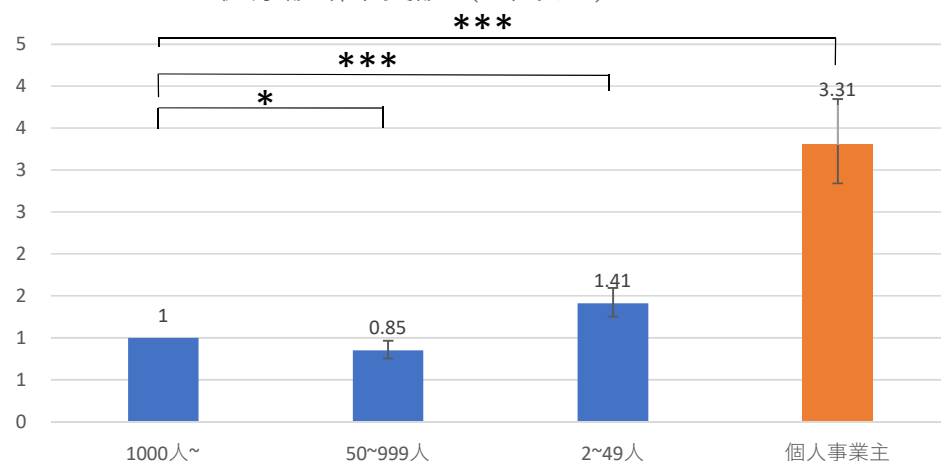
個人事業主は、組織所属者に比べて健康診断を受診できていなかった。

- 性・年齢、業種・職種、収入、教育歴、婚姻状況を調整した場合、個人事業主では、1000人以上の組織所属者比べて、毎年の健康診断受診の調整オッズ比が**0.27**であった。
- 性・年齢、業種・職種、収入、教育歴、婚姻状況を調整した場合、個人事業主では、1000人以上の組織所属者比べて、5年以上健康診断未受診の調整オッズ比が**3.31**であった。

毎年の健康診断受診（オッズ比）



健康診断未受診（5年以上）オッズ比



— 95%CI
*p < .05. **p < .01. ***p < .001.

個人事業主の健康診断受診状況（業種別）

		建設業	運輸業・郵便業	その他の業種
人数		108	42	2076
性別	男性	92 (85.2%)	36 (85.7%)	1180 (56.8%)
	女性	16 (14.8%)	6 (14.3%)	896 (43.2%)
年齢 mean (SD)		55.2 (12.7)	52.6 (12.8)	53.3 (13.3)
健康診断	毎年受けている	59 (54.6%)	20 (47.6%)	849 (40.9%)
	数年に1回受けている	22 (20.4%)	12 (28.6%)	439 (21.1%)
	以前受けていたが、過去5年以上受けていない	6 (5.6%)	4 (9.5%)	391 (18.8%)
	これまで一度も受けたことがない	21 (19.4%)	6 (14.3%)	397 (19.1%)
5年以上の健診未受診	5年以内に受診している	81 (75.0%)	32 (76.2%)	1288 (62.0%)
	5年以上受診していない	27 (25.0%)	10 (23.8%)	788 (38.0%)

個人事業主のヘルスリテラシー

個人事業主は、組織所属者に比べてヘルスリテラシーが低かった。

ヘルスリテラシー:

健康情報を入手し、理解し、評価し、活用するための知識、意欲、能力であり、それによって、日常生活におけるヘルスケア、疾病予防、ヘルスプロモーションについて判断したり意思決定をしたりして、生涯を通じて生活の質を維持・向上させることができるもの

- 性・年齢を調整した場合の、個人事業主では1000人以上の組織所属者比べて、有意にヘルスリテラシーが低かった (Model 1)。
- 更に、業種、職種、収入、教育歴、婚姻状況といった社会経済要因を調整しても、個人事業主では、1000人以上の組織所属者比べて、有意にヘルスリテラシーが低かった (Model 2)。

事業場規模	ヘルスリテラシー (連続) (Model1)			ヘルスリテラシー (連続) (Model2)		
	Coef.	p value	Std. Err	Coef.	p value	Std. Err
>1000						
50~999	-0.01	0.89	0.07	-0.15	0.03	0.07
2~49	-0.06	0.38	0.07	-0.33	<0.001	0.07
1	-0.44	<0.001	0.09	-0.68	<0.001	0.10

Model 1 : adjusted for sex, age

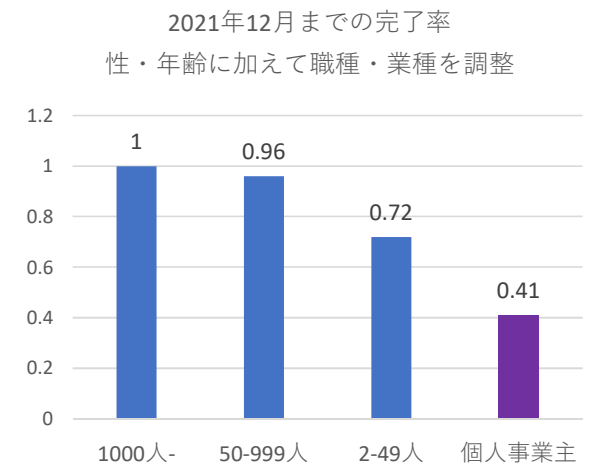
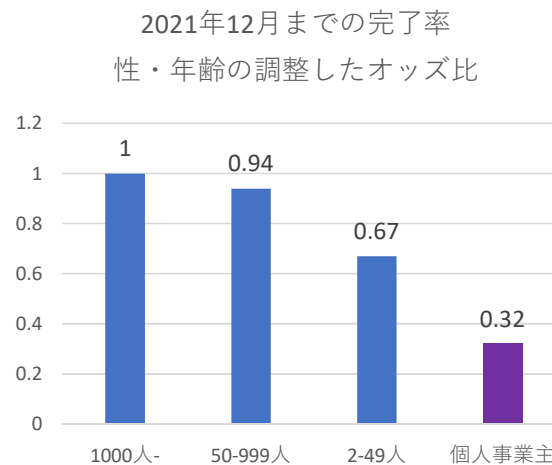
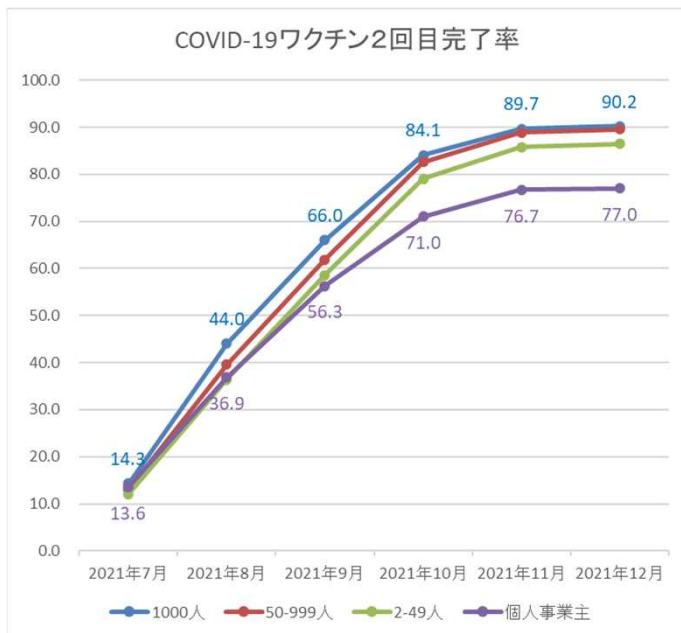
Model 2: Model 1 + additionally adjusted for household income (categorical), educational background (categorical), marital status, occupation, working industry

個人事業主のCOVID-19ワクチン接種

個人事業主のCOVID-19ワクチンの接種は、組織所属者に比べて低調であった。

- 2020年12月および2021年12月に実施したインターネット調査を利用して行った調査
- 15,829人を対象に分析、そのうち、個人事業主(組織規模1名)を1,738名含む
- 2021年7月以降の2回目ワクチン完了率は、7月においては規模による差が小さかったが、徐々に拡大した。

- 性・年齢、業種・職種を調整した場合のオッズ比は、所属する企業規模によって差を認めた。
- 個人事業主では、1000人以上の組織所属者比べて、調整オッズ比が0.41であった。
- 収入や教育歴、婚姻状況といった社会経済要因および職域接種機会の有無で調整しても、個人事業主は、有意に接種状況が悪かった。



CORoNa Work Projectのデータを利用して分析。一部は、Environ Health Prev Med. (2022)に発表済

まとめ

- 個人事業主は、睡眠時間が比較的取れているとの結果であったが、通勤時間の身近さや労働時間の裁量などの背景があると考えられる。
- 個人事業主の主観的健康観は、被雇用者に比べて高いという結果であった。
- 個人事業主は、被雇用者に比べて、健康診断の受診率、ヘルスリテラシーが低いという結果であった。健康診断の受診率は、業種による差が認められた。
- 個人事業主は、被雇用者に比べて、COVID-19ワクチンの接種が低調であった。
- 個人の健康行動の向上においても、何らかの支援が必要と考えられる。

参考

2022年2月に実施したインターネット調査会社を利用して行った調査

27,693人を対象に分析、そのうち、個人事業主(組織規模1名)を2,226名含む

個人事業主のヒヤリ・ハット経験

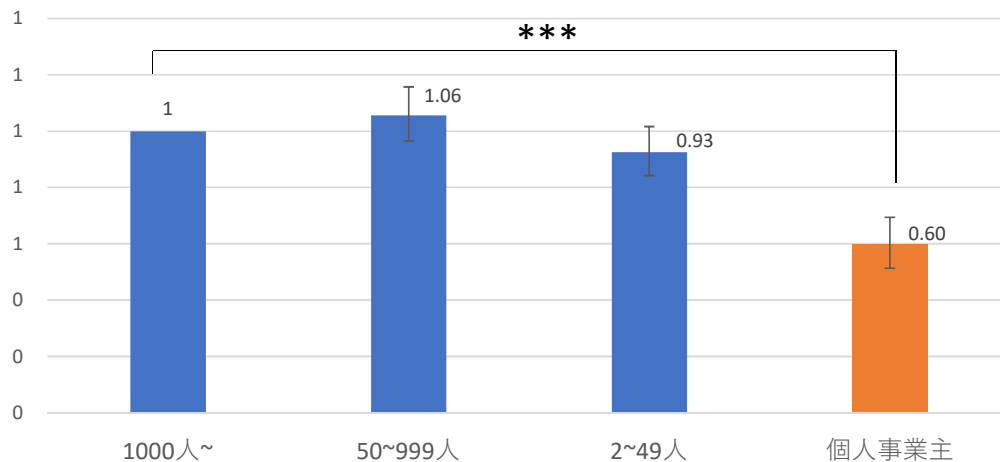
【設問】あなたは、現在の職場で、過去1年間において、労働災害につながるような「ひやり」としたり、「はっと」したりした体験（ヒヤリ・ハット体験）がありましたか。

個人事業主は、組織所属者に比べてヒヤリ・ハット経験が少なかった。

- 性・年齢、業種・職種、収入、教育歴、婚姻状況を調整した場合のオッズ比は、所属する事業場規模によって差を認めた。
- 個人事業主では、1000人以上の組織所属者に比べて、調整オッズ比が0.60であった。
- 更に、在宅勤務の頻度で調整しても、個人事業主は、有意にヒヤリ・ハット経験が少なかった。

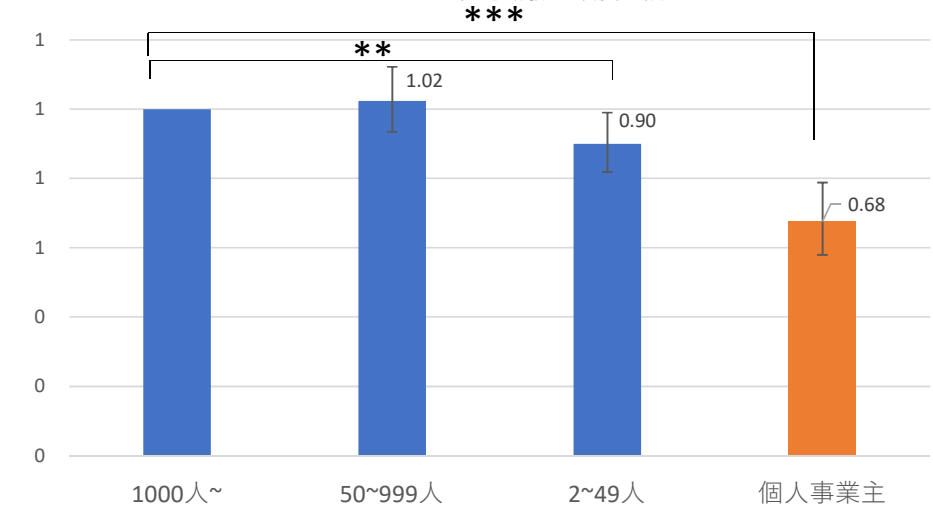
過去1年間のヒヤリハット経験（オッズ比）

Model 1. 性・年齢・業種・職種・収入・学歴・婚姻歴を調整



過去1年間のヒヤリハット経験（オッズ比）

Model 1に加えて在宅勤務の頻度を調整



95%CI
*p<.05. **p<.01. ***p<.001.

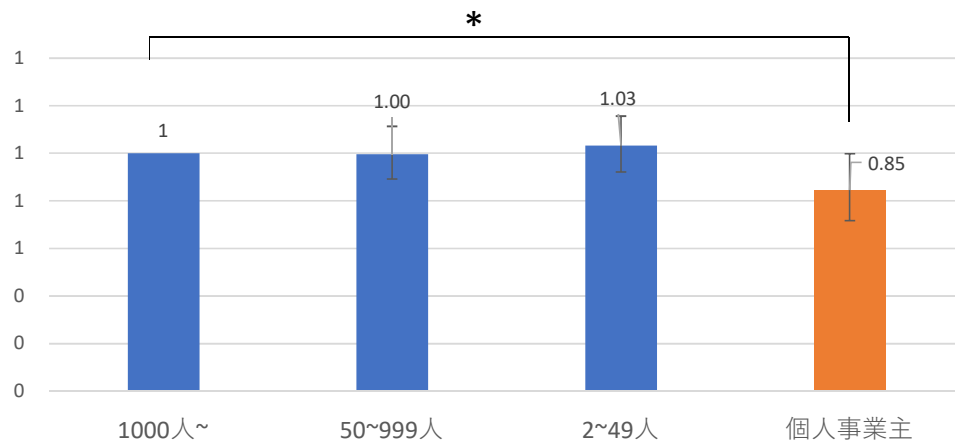
個人事業主の業務中の転倒経験

業務中の転倒経験は、個人事業主と組織所属者で有意な差を認めなかった。

- 性・年齢、業種・職種、収入、教育歴、婚姻状況を調整した場合、個人事業主では、1000人以上の組織所属者比べて、調整オッズ比が0.85であった。
- しかし、在宅勤務の頻度で調整した場合、事業所規模による転倒経験の差は有意ではなくなった。

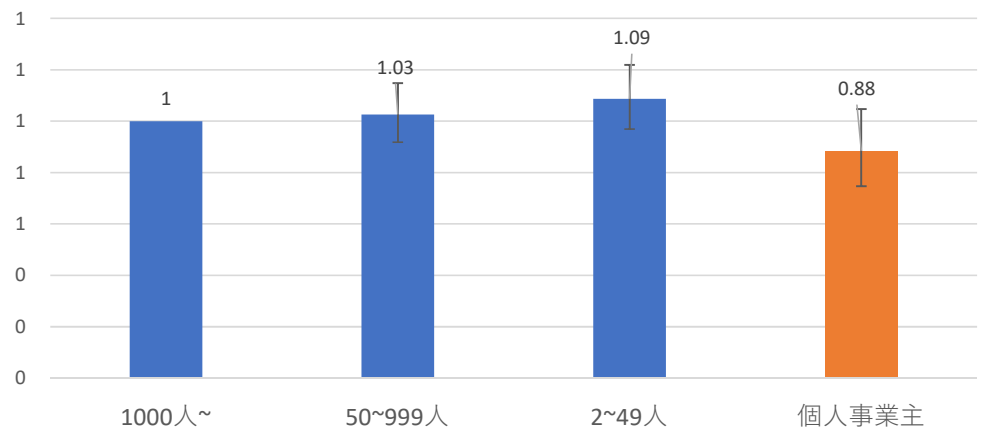
過去1年間の転倒経験（オッズ比）

Model 1. 性・年齢・業種・職種・収入・学歴・婚姻歴を調整



過去1年間の転倒経験（オッズ比）

Model 1に加えて在宅勤務の頻度を調整



— 95%CI
*p<.05. **p<.01. ***p<.001.